

生産用機械器具製造業(金属プレス用金型製造業)に係る総合的かつ体系的な職務分析の推進に関する調査研究資料要約版

1書名	生産用機械器具製造業(金属プレス用金型製造業)に係る総合的かつ体系的な職務分析の推進に関する調査研究資料				
2発行番号	調査研究資料No. 130-2	3分野	生涯職業能力開発体系	4担当室	調査研究室

5目的

中小企業等が、日常業務の合間に社内の仕事や作業をゼロから洗い出し、従業員の人材育成計画や教育訓練計画等を策定するには大変な労力と時間が必要となります。本調査研究は、業種ごとに段階的かつ体系的に職務や仕事を整理し、必要な職業能力等を「見える化」することによって、企業において段階的かつ体系的な人材育成計画や教育訓練計画等を立てていただくことを目的に進めている調査研究です。

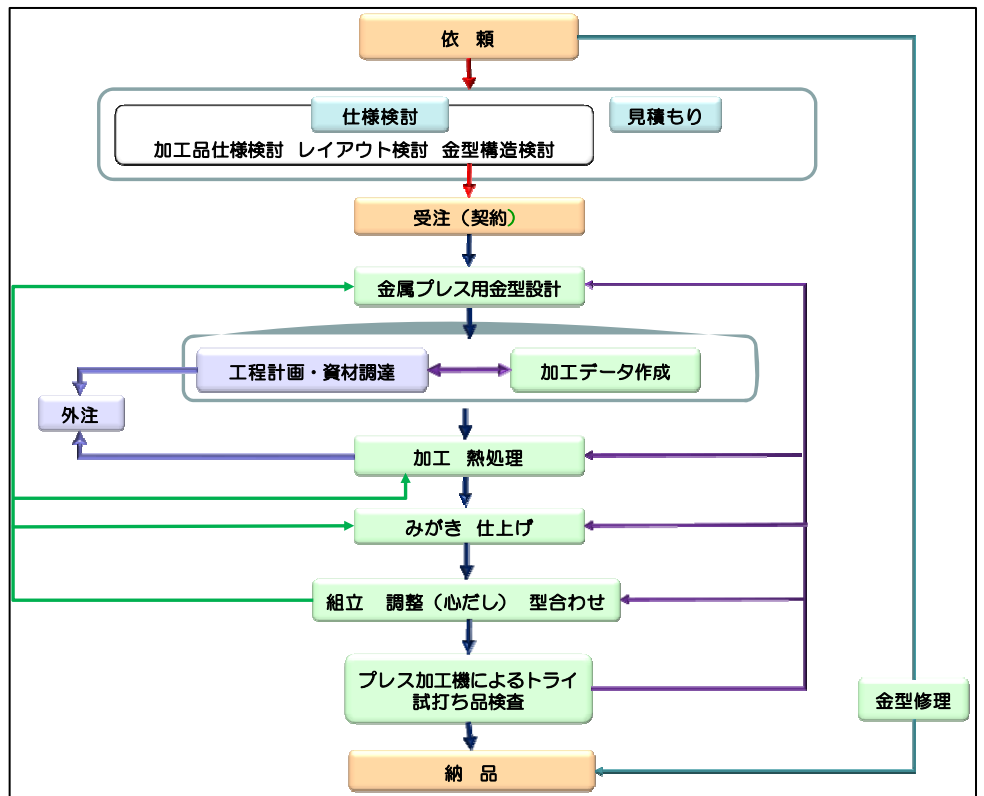
6概要

本調査研究は、中小企業等が人材育成において抱えている課題や問題(技能・技術の承継ができない、優秀な人材を確保したい、従業員に目標とやりがいを持たせたい、従業員ごとに必要な研修や研修計画の作り方が分からない等)を解決する一助として、産業団体等の協力を得て、それぞれの業種ごとに「職務」を遂行するために必要な能力要素を洗い出し、団体・企業等が行う能力開発や人材育成等に係る計画を効果・効率的に進めていただくよう整備しているものです。

本調査研究資料は、(社)日本金型工業会の協力のもと、生産用機械器具製造業(金属プレス用金型製造業)の「依頼」から「受注」、「納品」までの一連の流れの中で行われる仕事や作業、またその作業を行うにあたって必要となる知識や技能・技術を洗い出し、また、仕事については個々にレベル間の調整を行い、

段階的かつ体系的にまとめたものです。この職業能力体系のモデルデータは、「金属プレス用金型製造業」の標準的な仕事や作業等を整理したものです。自社で活用するにあたっては、本モデルデータに自社の特徴などを付加して、オリジナルの職業能力体系のモデルデータを構築していただき、能力開発や教育訓練の計画・実施に活用していただけます。

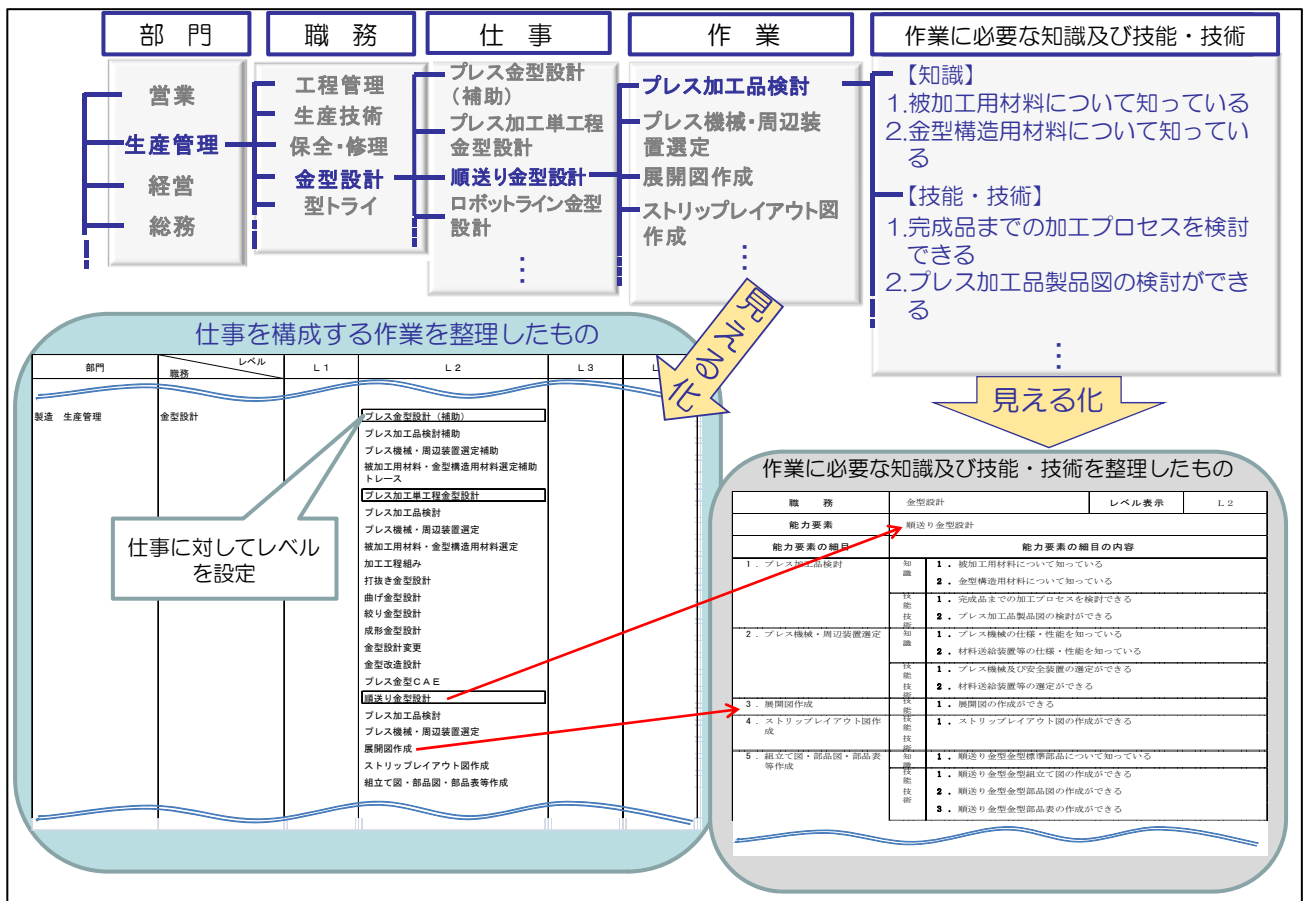
図表1: 生産用機械器具製造業(金属プレス用金型製造業)の標準的な業務の流れ



7職務分析に係るポイント

- ①仕様検討については、受注前に大凡決定し受注後に詳細を決定する。また、その対応は、営業が中心として実施する。（但し、設計も技術ある程度できる熟練者）そのため、仕様検討の仕事・作業の大半は営業の中に入れ、詳細に検討する仕事・作業については、設計に入れる。
- ②営業の担当者は、設計及び生産技術を担当するものと密接に協力して調整を図ることから、営業を製造部門に設定した。見積りの仕事については、営業が実施する。
- ③輸出に関しては、梱包は工場で行うが、実務は営業もしくは資材が行う場合が多い。
- ④精密金型を製作する上で、工場内及び測定室の空調を中心とする温度管理は非常に重要である。
- ⑤品質管理、品質保証は、試打ちした成型品又はプレス品の精度で顧客に示している。そのため、検査は、金型部品の個別検査、中間検査、精密検査と実施している。
- ⑥金型は、単品製作のため個別原価計算となる。
- ⑦設計は、2D図面がメイン、作業指示書にCAMデータと図面と使用工具を記載し工程順に指示する形態となっている。

図表2: 金属プレス用金型製造業の部門・職務等関係図



8本書の活用方法

生涯職業能力開発体系は、後継者・管理者・社員の人材育成や人材確保に関して、「仕事の見える化」・「能力の見える化」・「目標の見える化」等によって課題発見・解決に活用できます。例えば、自社のISO認証取得や人材育成、技能伝承に反映させる技術・技能マップの基礎資料としての活用事例があります。

注記 本報告書等は、能力開発研究センター「職業能力開発ステーションサポートシステム

・能力開発研究センター刊行物検索」から閲覧、ダウンロードができます。

URL : <http://www.tetras.uitec.jeed.or.jp/>